

Back Number

本論文は

世界経済評論 2023 年 3/4 月号

(2023 年 3 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

世界の趨勢と日本の戦略



公立大学法人熊本県立大学理事長

白石 隆

世界は大きく変化している。ロシアはウクライナ侵略で「力による一方的現状変更は許されない」という世界規範を蹂躪した。中国は米下院議長の訪問を口実に、台湾を事実上封鎖する大規模軍事演習を実施し、台湾「統一」のための軍事力行使を否定しない。このためだろう、世界の分断はもっと深まるのではないかと、グローバル主義が終わり、帝国主義が戻ってくるのではないかと、こういう懸念が広く共有されている。

では、どう考えればよいか。重要なことは世界の大きな趨勢を常に考えておくことである。冷戦終焉以降のグローバル化の中、国レベルでは先進国が地盤沈下し、中国、インドなどの新興国が台頭した。地域的には世界経済に占めるアジアのシェアが北米、欧州より大きくなった。一人当たり所得は、新興国中間層で大きく伸びる一方、先進国下位中間層・下層では停滞した。技術革命の進展する中、新興技術が産業と安全保障の鍵となった。

先進国も新興国もこういう趨勢の先に自国の未来を考え、戦略を立てる。先進国では自由主義的国際秩序が広く支持される。しかし、グローバル主義は支持を失った。一方、新興国にとって自由主義的秩序は自分たちが作ったものではない。また、「これからは我々の時代だ」

と考え、自己主張を強め、影響圏構築に動く国もある。この相互作用がどんなダイナミクスを生むかは地域によって違う。

プーチンのロシア帝国再建の試みはウクライナとNATOとG7の対抗でおそらく行き詰まった。しかし、中国は「中華民族の偉大な復興」に邁進し、習近平主席はバイデン大統領に「中米双方」は「正しく付き合う道を検討し、両国に「幸福」を、「世界に恩恵を」もたらす必要があると述べた。つまり、米中で世界を仕切ろう、ただし、条件がある、台湾「統一」に介入するな、ということである。

一方、米国はその社会的分裂のために、政治はこれからも大きく揺れるだろう。しかし、外交・安全保障ではトランプ時代以来、同盟国、パートナー国との連携、新興産業技術の優位維持、中口ほかの現状変更勢力に対する統合抑止で広範な合意が生まれた。

では、日本はどうか。世界の趨勢、米中等の戦略を考えると、日本の安全と繁栄のために「自由で開かれたインド太平洋」を守る、そのために人に投資し、経済安全保障を推進し、防衛力を強化し、米国との同盟、豪州、英国等との連携を強化するというのはまさに日本が進むべき方向と思う。

(しらいし たかし)